

治らないと悲観していましたが、  
今では普通の生活を送られています。

## 「リウマチとリンパ腫」

小嶋喜美 65 歳

2017年9月7日

2005年、53歳の頃、突然の手首の痛みと、軽い目眩、スーパーのビニール袋を手にした時の痒み、加えて鼻炎を発症し、かかりつけの個人医院で診察を受けました。診察結果は、関節炎と肌荒れとの事で、リンデロンVG軟膏。鼻炎は市販の薬を服用。

その後、胃炎と膀胱炎になり、他の医院にて以下の薬を処方され、服用しました。

内科	ガスターD、バイナス錠
泌尿器科	バナン、クラビット錠
婦人科	タベジール、ダーゼン錠 マノザークリーム
眼科	オフロキシ点眼液 フルオロメトロン点眼液

以上の薬を服用しながら、膝が痛み出した為、ステロイドを月に一度は打っていました。他に、テレビ・雑誌等で宣伝している、青汁、プルーン、大麦若葉、青魚エキス等々を飲みました。

### ○2006年 54歳

ふと気づくと、右肘の関節が少しずつ曲がり始め、手足の指の関節も曲がり出してきました。

この為、当時名古屋に居住しており、この地域ではリウマチに関しては一番良いとされる、ある大学病院の分院に通院することにしました。

初診時に、“リウマチは治りません。薬で現状維持することしか出来ません。”と言われ、悲しくなり、診察室で泣いてしまったことを今でも思い出します。

○2007から2009年まで大学病院へ通院したときに処方された薬等。

PL散、クラビット、アズレン点眼液、ロキソニン、ハルシオン、モービック錠、マイスリー、アザルフィジンEN、フロモックス、ファルネラートゲル。  
膝が痛い時、ステロイド注射。

その後、通院していても、膝の痛みも増し、車乗り降りも困難になり、腕、肘の関節もさらに痛くなりました。

担当の医師は、患者の顔を見ることもなく横向きでお話しされるし、3時間程待って、2分位の問診時、眠れないと言えば睡眠薬を処方され、次回、また眠れないと言えば、あまり良くないのですが、と更に強い睡眠薬を処方されました。また、同病院で、長年通院している患者さんと知り合い、その方の症状が悪化している様子を見て、不安を抱きました。

そして、知人の知り合いの方が、同じ病院のリウマチ科に通院したが、良くなり、大阪の松本医院というところで治療を受けて治った、という話を聞きました。半信半疑でしたが、先ずその女性にお会いし、いろいろなことを聞き、松本医院にとりあえず行ってみる事となりました。手記を読んで、良く理解してからでないと、帰される事があるよ、とのアドバイスも受けました。

○2008年 1月 56歳

主人と一緒に高槻の松本医院に行きました。

最初お会いした時、松本先生は少々怖い方かと思い、ドキドキしましたが、ちゃんと目を見て大きな声で話して下さい、**“リウマチは治ります！”**と言って下さり、名古屋の病院の時との違いに、思わず嬉し涙を流しました。

そして、松本先生のご指導でリウマチは徐々に治ってきました。また、ストレス軽減や諸事情により、2010年12月、名古屋から長野県の標高約1000メートルの所へ移住し、静かに暮らしておりました。

○2014年 62歳

突然、左顎の下に、ゴルフボール大のシコリを見つけ、地元の病院へ行き、すぐに隣町にある総合病院に行くこととなり、アレヨアレヨと考える間もなく不安ばかりで、次から次へと検査が続き、癌かも知れないと脅され、いや告げられました。8月から11月までの4ヶ月間、検査の日々が続きました。

先ず、耳鼻科でMULTリンパ腫と診断される。検査は以下の通り。  
超音波検査 頸部CT撮影 血液検査 免疫学的検査 尿糞便検査 ホルモン

マーカー CT撮影（胸、腹部） リンパ節等針生検 細胞診 MRI画像診断

外注検査1

結果報告書 可溶性IL2レプター  
結果値 1110H  
参考値 145-591U/mL

MRI撮影 乳房撮影……etc.

これらの検査を、耳鼻科、内科と同様な検査ばかり。その後、乳癌、肝臓癌かも知れないと検査。病院へ行くたびに、血圧が180以上になり、食欲もなくなりました。

そして最終結果は原因不明とのこと。“とりあえず腫瘍を切り取って調べてみましょう、どうしますか？”と言われ、迷う間も無く、手術します、と答えてしまいました。

手術日が11月30日ときめたのですが、冷静に考え、松本先生に電話して相談し、叱られました。翌日、当病院へ行き、手術することを取り止めました。

現在は、また松本先生のお陰で、腫れもすっかり引き、通常の生活をしています。今も月2回の鍼灸師による鍼治療を続け、必要な時には主人にお灸をやって貰っています。

簡単な手記ですが、松本先生と出会っていなければ、今頃リウマチによって手足は酷く曲がり、歩く事も出来ず、寝たきりになっていたかも知れません。左顎の腫瘍も、手術をしていたら、薬漬けになり、この様な手記も書けなかったことと思います。

私達夫婦にとって、松本先生は命の恩人です。第二の人生を思い切って選択出来た事も先生のお陰です。

松本医院の手記を読まれた方は、一刻も早く松本先生に相談にいらして欲しいと願うばかりです。

本当に有難う御座いました。



